

クス育種の基礎研究 (第4報)

アカクス, アオクスの二三の形質について

日本専売公社しょう脳試験場 倉田 隆・甲斐 正・山田保昭

従来アカクス, アオクスは俗称品種として認められているが, この両者がいかなる点で差異があるか未だ不明な点が多い。今回は外部, 内部の形態的調査を行ったので, その結果を報告する。

1. 葉の大きさ

押川 (1935) はアオクスはアカクスに比し, 葉丸味を帯び穴にして厚味ありとし, 野間口 (1937) はアカクスの方がアオクスに比較し, 葉穴 (葉長, 葉巾共) にして稍長味のものが多いと述べ, 両氏の記述は正反対の感がある。筆者等の測定結果ではアカクス, アオクスに顕著な差異は見出せなかつた。即ち長さ, アカクス6.26cm, アオクス6.55cm, 巾2.93cm, 3.00cm, 形状比0.465, 0.457である。

2. 葉内組織の大きさ

葉内各組織の大きさには殆んど差異がない。唯アオクスの方が上, 下面表皮細胞において変異巾がやや大であつた。

3. 気孔の大きさ, 分布数

気孔の大きさにおいては殆んど差異がない。分布数においてはアカクス44個 (一視野) アオクス39個でややアオクスの方が少なかつた。

4. 油細胞の大きさ, 分布数

油細胞の大きさにおいてはややアカクスの方が大きい。但し有意差は認められなかつた。分布数において

は, 葉, 幹, 根部共アカクスはアオクスより多く, 有意差が認められた。

5. 含脳油率

葉, 枝幹, 根部共アカクスはアオクスよりも含脳油率において勝る傾向が見られた。今脳油率と油細胞との関係を見るに, 油細胞の分布数が含脳油率に影響があるように見える。

従つて脳油の多少は油細胞の大きさよりも分布数に支配されるように考えられる。

6. トルオール蒸溜による水分量, 乾物量

水分量においては枝部, 根部において差異が見られたが, 葉部, 幹部では顕著な差異は見られなかつた。乾物量においては, 枝部, 根部に差異があつた。トルオール溶解成分においては, 葉部, 枝部に差があつた。一般にアカクス, アオクのこれら形質の差は枝部, 根部に顕著であつたが, 葉部, 幹部では殆んど差異はない。この中でも枝部での差が一番大きくアオクスの方が水分が多く, 乾物量は少なかつた。

7. 灰 分

灰分率においては殆んど差異はなくややアオクスの方が若干多かつた。

以上の通りアカクスとアオクスとの形質の中含脳油率において若干の差異が見出されたことは, 今後の造林上の品種選定の一助になると思ふ。

砂丘林造成に於ける草地化造林法 (II)

人為植生の誘導

九大農学部 佐藤 敬二・宮島 寛

I は し が き

我々は海岸の砂丘地に森林を造成しようとするに当つて砂丘地を先ず草植化し, 早期緑化による飛砂の鎮圧と環境改善による林地化への自然誘導を行うと同時に挿幹, 埋條, 植栽等による短期造林法を試みてき

た。ここには昨年以來実行の人為植生の経過についてその概要を述べたい。

II 試験地の概況

試験地は, 福岡県粕屋郡和白村雁ノ巣にあり, 福岡営林署部内にある海岸砂丘地であつてその概要は前報